

SAMPLE

特集レポート No. 030

アジアを中心としたEMS最新動向

Strictly Confidential

 Info Mart Corporation

2017年 6月28日

はじめに

- 電子機器業界では、技術の進歩およびメーカーの生産体制の変化を背景にEMS企業(電子機器の受託生産を手がける事業者)が成長してきた
- 1980年代は北米を中心に大手メーカーの外部委託や工場を持たないベンチャーの台頭が進んだため北米系のEMS企業が成長をしていたが、1990年代から2000年代にかけては台湾系のEMS企業が台頭し、EMS業界を牽引している
- 本レポートでは、EMSが発展した背景を明らかにする。特に、成長が著しい台湾系のEMS企業の成功要因を明らかにし、最新の動向についても説明する。また、日本においてEMSが発展してこなかった背景についても考察をおこなう

本資料の流れ



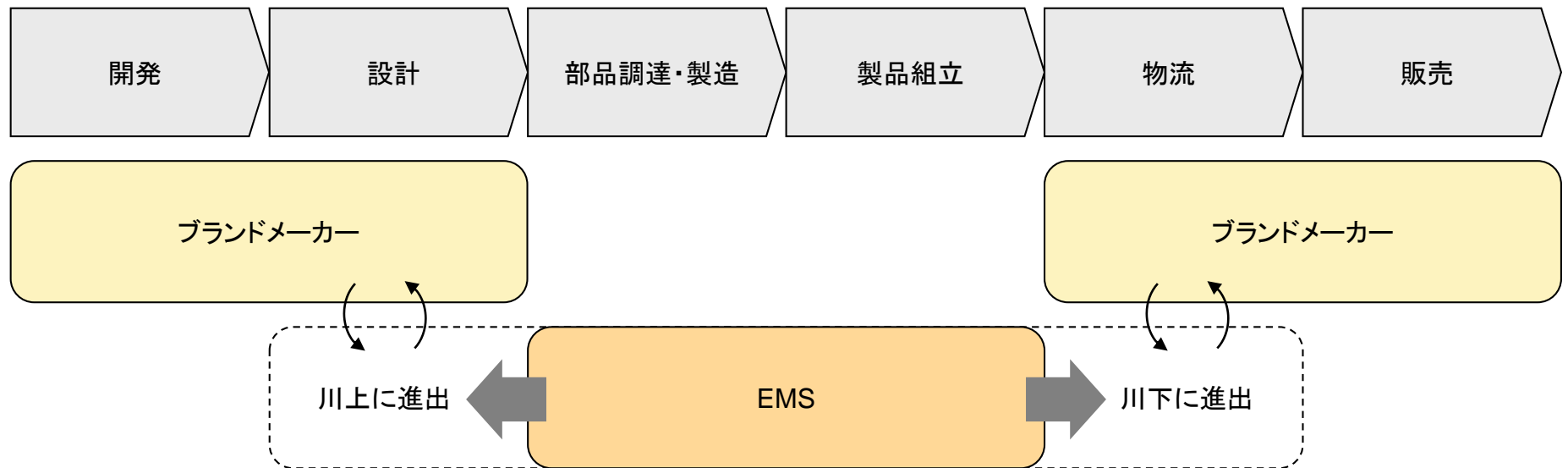
- I. EMSの概要
- II. EMS企業の最新動向
- III. 日本におけるEMS企業
- IV. EMSの今後の展望

EMSの概要

- EMSとは受託先のブランドで電子機器の受託生産をおこなうサービスである
 - 川上の設計業務や川下の物流業務まで事業領域を拡大する動きもみられる

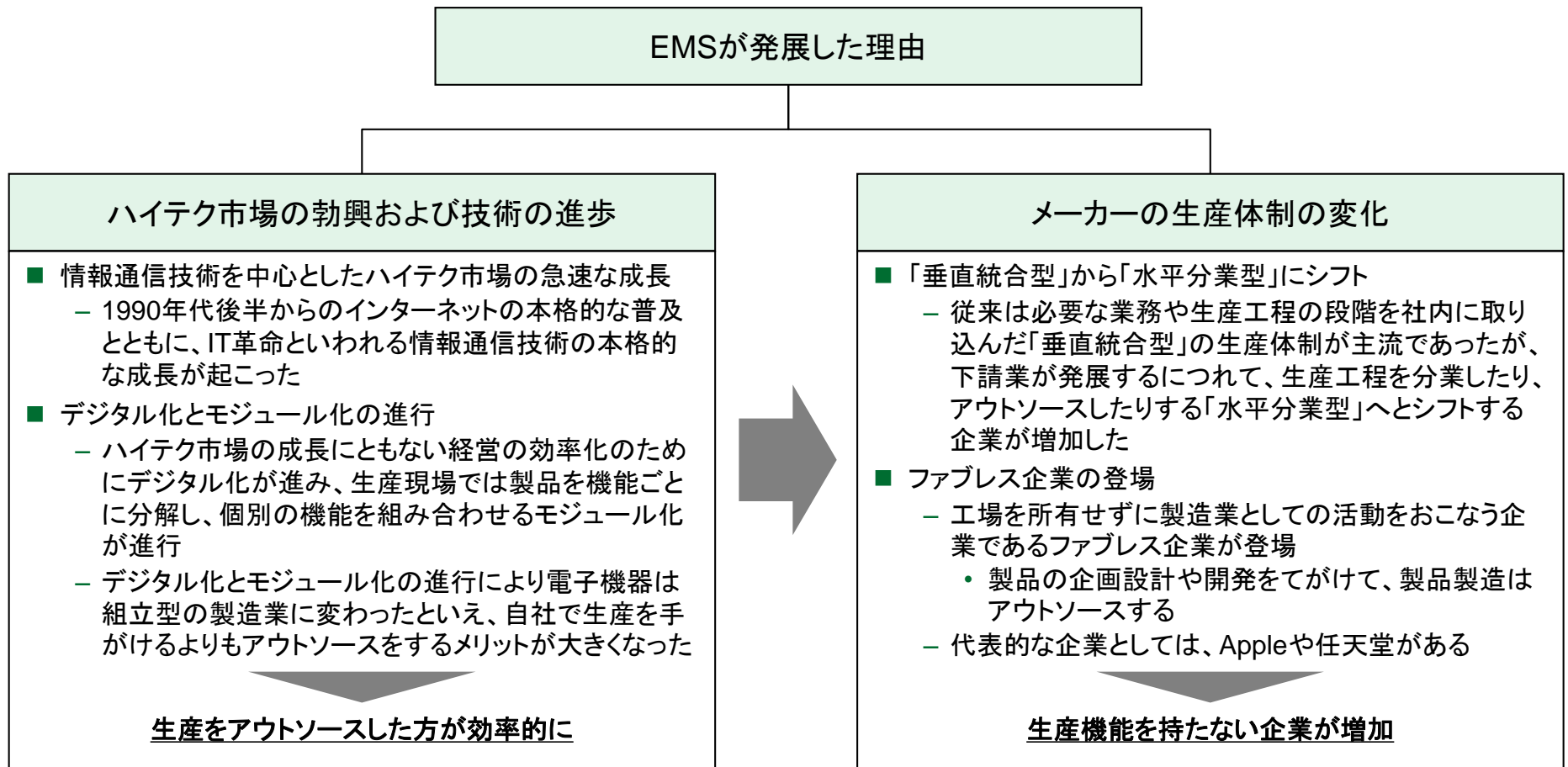
EMSとは	<ul style="list-style-type: none"> ■ Electronics Manufacturing Serviceの略であり、電子機器の受託生産をおこなうサービスのこと ■ 自社のブランドの製品開発はおこなわずに、複数の企業から生産委託を受けて、保有する大量生産設備の操業度を高めることで、スケールメリットを活かした生産をおこなうビジネス
-------	--

事業領域のイメージ



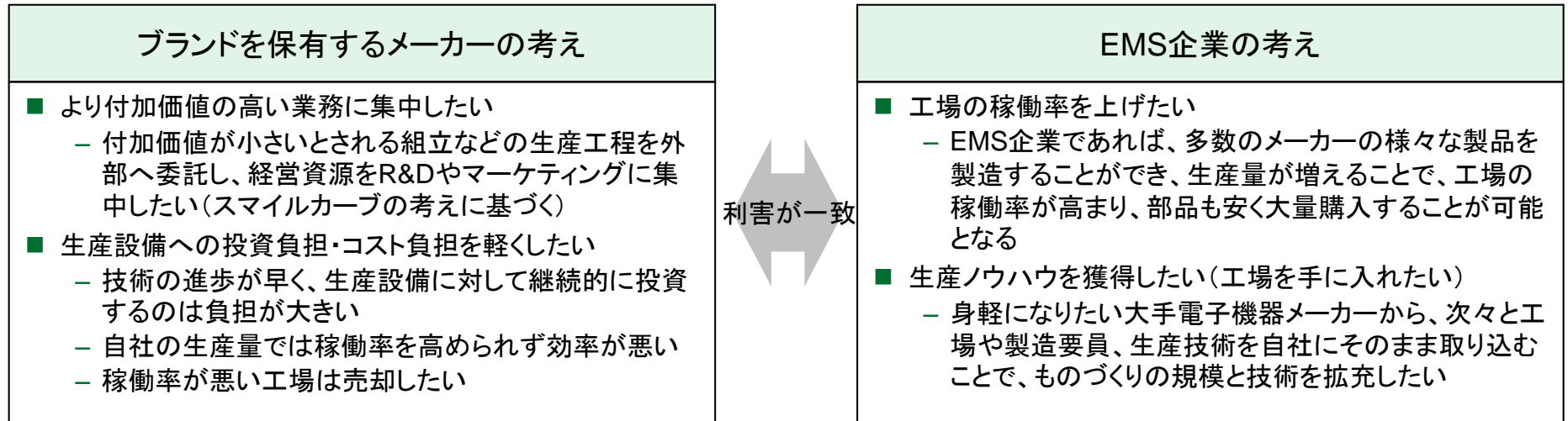
EMSが発展した背景

- EMSが発展した理由としては、ハイテク市場の勃興や技術の進歩により、メーカーの生産体制が変化したことが大きい



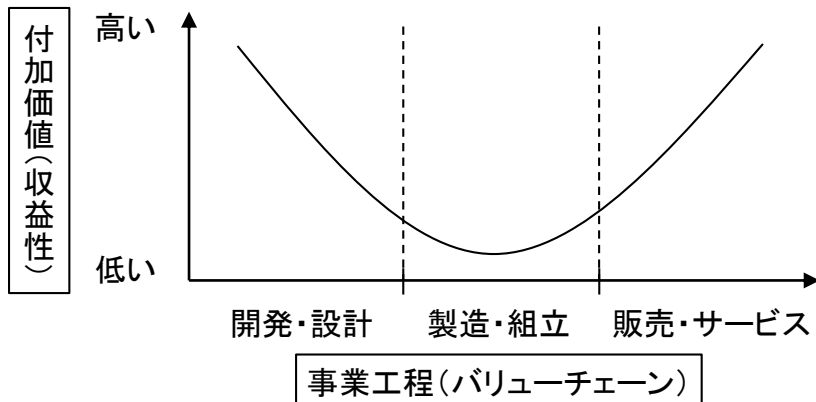
ブランドを保有するメーカーとEMS企業の関係

- ブランドを保有するメーカーとEMS企業はお互いの利害が一致しており、EMSの発展につながった



参考:スマイルカーブ

- スマイルカーブとは、電子産業や産業機器分野に
おける付加価値構造を表す曲線
 - 事業工程(バリューチェーン)の中で、製造・組
立の付加価値がもっとも低く、上流となる開
発・設計と下流の販売・サービスの付加価値
が高いという考え
 - 曲線が放物線状に広がることからスマイル
カーブと名付けられている



SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

